

本資料は、道徳部小学校高学年部会の研究として取り組んだ。終末については、学年部会で以下のような意見も出た。

○現代社会の中で、命が大切に扱われていることを考えて発表する。

- ・病気の女の子がたくましく生きていく話
- ・四川大地震で助けられた場面
- ・「いのちのあさがお」で、命がつながっていくようす

○我が身をなげうって人を助けた韓国人留学生の話聞き、その後、命が大切に扱われていることを考えて発表する。

- ・みんなで命のリレーをして、赤ちゃんの命を助けた。
- ・ドナー登録や輸血などで人を助ける。

○現代社会の中で、命が粗末に扱われていたり、大切に扱われていたりすることを考えて発表する。

- ・命が粗末に扱われていること・・・自殺、秋葉原の事件、戦争
- ・命が大切に扱われていること・・・ユニセフの活動、高齢者医療制度

○身近に起こっている事件について話をし、命の尊さについて考え発表する。

- ・東京の秋葉原で起こった事件について話し合った。

授業で戦争という重たい内容を扱っているし、最近暗いニュースが多いので、終末は命が大切にされていると思った出来事や命を大切にできた経験などを話させ、前向きな方向で終わりたいという意見が多かった。その他にも、みんなが知っているニュースから説話で終わるといった意見や話の内容をじっくり感じて終わるといった意見もあった。

### 3 成果と課題

本資料は戦争の場面が取り上げられており、戦争のことをよく知らない子どもたちに登場人物の心情を深く考えることができるのか少し不安があった。道徳部高学年部会の話し合いでも、時代背景についての知識がない5年生には難しいのではという意見もあった。しかし、授業に入る前に戦争に関する絵本を読んだり、DVDを見たり、授業を2時間扱いとして第1時で戦争について学習するなど、工夫しながら授業を行った先生方の話を聞いて、授業の前段階が必要であるが、導入できちんと戦争について押さえておけば、5年生でも6年生でも取り組める資料であると分かった。5年生には5年生なりのやり方があり、子どもたちも、その学年なりの考えをもっていたという報告もあった。

また課題として、生命の尊重を大きなテーマとして授業を進めていったのだが、授業の最後に「授業をしてみて、どんな気持ちをもちましたか。」と聞いたところ、命に関するのではなく「戦争は嫌だ」などの戦争批判の意見がいくつか出てしまったことが挙げられる。戦争の資料を通して、命の大切さを感じて欲しかったのだが、戦争のインパクトが強すぎて、頭の中が戦争批判でいっぱいになってしまった子が何人かいた。しかし、他の先生方の実践を聞くと、それほど戦争にこだわった意見は出なかったようなので、わたしの授業の進め方や意見の取り上げ方に問題があったと思われる。終末へのもっていき方をもう少し考えなければいけなかったと反省した。

今回の授業は、どの子も今までになく真剣に話を聞き、考えていた。しかし、授業を一回やっても、時間がたつと子たちの意識が薄れていってしまったり、忘れてしまったりする。何度も何度も繰り返し考える機会を与え、少しずつ積み重ねていくことが大切である。今後も、道徳の時間や総合的な学習の時間を通して、命の大切さについて子どもたちと一緒に考えていきたい。



## 1 研究のテーマ

心豊かに、たくましく未来を拓く道徳教育  
～自他の命を大切にしようとする心を育む～

## 2 研究概要

## (1) はじめに

4月から、無差別の通り魔事件や子どもが親を刺殺する事件、バスジャック事件など暗いニュースが続いている。事件後も犯人に反省の色はなく、「誰でもよかった」「世の中が嫌になったから」など、命の重みなど全く考えていない身勝手に短絡的な犯行に寒を感じる。

事件が報道されている頃、学級の子どもたちと事件について話をしたが、「犯人は頭がおかしい」「何でそんなことするのか分からない」など、子どもたちにとっても理解の範囲を超えた犯行であったようだった。しかし、このような事件は決して他人事ではなく、いつ子どもたちが被害者や加害者になるか分からないのではないかと心配になる。

事件の犯人に対して批判をする子どもたちではあるが、子どもたち一人一人が本当に命の大切さを理解しているのか、命を大切に扱っているのかというと、必ずしもそうとはいえない。友だちに向かって軽々しく「死ね」「殺す」と言ったり、生き物の世話を途中で飽きて放り出してしまったりする子もいる。また、テレビアニメやドラマで、人が殺される場面をよく目にし、殴り合ったり殺し合ったりするゲームを好んでやっている子もいる。

そのような子どもたちと、命の大切さについて真剣に考える機会を設けたいと思った。そこで、資料『五十五年前のたん生日』を取り上げ、命は1回きりなんだということに改めて気づかせ、その1回きりの命を大切にしていこうという気持ちを高めてほしいと考えた。

## (2) 研究の視点

《心に響く『道徳の時間』の指導法の工夫》

## ○導入で戦争について理解を深める

戦争中の人々の生活の様子や戦争の悲惨さなどを理解していないと、資料の私、父、母などの気持ちを考えることはできないと思われる。そのため、時代背景や空襲などの事実をつかませておく必要がある。そこで、本時の導入で、事前に戦争について聞いたり調べたりしたことを発表させたり、東京大空襲について簡単に説明したりする。戦争の悲惨さを伝える資料として、『東京大空襲』（早乙女勝元・作）を用意する。また、本校では、毎朝『ふれあい読書』の時間があるので、その時間を使って、戦争が舞台となっている本（『さとうきび畑の唄』『大人になれなかった弟たちへ』『ちいちゃんのかげおくり』『ガラスのうさぎ』『ほたるの墓』）を紹介し事前に読ませ、戦争について自分なりの思いをもたせてから、本時の学習に入る。

## ○総合的な学習の時間との関連

総合的な学習の時間の年間テーマを『国際理解』として進めている。今だに紛争の耐えない国々やユニセフの活動などについて学習していく中でも、命の大切さについて考えていきたい。

## (3) 考察

## ①資料について

資料『五十五年前のたん生日』3-(2) 生命の尊重 出典「あすをみつめて」日本文教出版

本資料『五十五年前のたん生日』は、東京大空襲で弟と母親をなくしたおばあちゃんの体験を聞き、家族を失った悲しみや命のつながり、命の大切さについて考えさせられる話である。場面は3つに分けられる。



【場面1】 テレビで人が死んでいく場面を見ているぼくと弟を見て、「人が殺される場面を見ると、戦争のことを思い出す。だから、いやなんだよ。」とおばあちゃんがつぶやく場面

【場面2】 おばあちゃんが、東京大空襲で弟と母親を亡くした話の場面

【場面3】 おばあちゃんが、「命は1回きり、1回きりなの。」とぼくに話す場面

場面の様子を想像しやすいように、空襲の絵や写真を提示したり、言葉を補足しながらゆっくりと朗読した。また、【第3場面】に出てくるおばあちゃんの言葉「命は1回きり」が本資料のキーワードであると考え、「命は1回きり」という言葉をきちんと押さえ、子どもたちに考えさせながら授業を進めた。

## ②発問について

まず、【場面1：テレビで人が死んでいく場面を見ているぼくと弟を見て、「人が殺される場面を見ると、戦争のことを思い出す。だから、いやなんだよ。」とおばあちゃんがつぶやく場面】で、おばあちゃんの言葉を聞いた時のぼくの気持ちを考えさせた。

### 【発問①】

「人が殺される場面を見ると、戦争のことを思い出す。だから、いやなんだよ。」というおばあちゃんの言葉を聞いたぼくは、どんな気持ちでしょう。

C1：戦争とテレビは別だよ。

C2：何でそんなこと言うの。テレビなんだからいいじゃん。

C3：じゃあ、見なければいいのに。

C4：テレビで人が殺される場面を見ただけで戦争を思い出すなんて、そんなに忘れられないことがあったのかな。

C5：おばあちゃんに悪かったかな。

C6：戦争ってどんなものなんだろう。

C7：おばあちゃんの大切な人が死んでしまったのかな。

C8：テレビで人が死んだだけで嫌なら、戦争で目の前で人が死んでしまったら、どんな気持ちになるんだろう。



学級の子どもたちも、テレビやゲームが大好きである。アニメやドラマで人が殺されるシーンをよく目にしていだろうし、人や生き物を殺したり殴り合ったりしたりする内容のゲームを好んでやっている子もいる。資料に登場するぼくと自分を重ねる子もいるのではと思った。

本資料は子どもたちの実生活とはかけ離れた戦争の場面が出てくるが、【場面1】で登場するぼくが子どもたちと重なる部分があるため、【発問①】は答えやすかったようだ。

その後、【場面2：おばあちゃんが、東京大空襲で弟と母親をなくした話の場面】を、写真を提示したり、語句の説明をしたりしながらゆっくりと朗読した。空襲の中を逃げ惑う鬼気迫る場面や、母と弟が死んでしまう壮絶な場面など、状況がよく分かるように気持ちを込めて読み進めた。

### 【発問②】

弟が一日置いて息をひきとった時、わたしはどんな気持ちでしょう。

C9：どうして何も悪くない人が殺されないといけないの。

C10：もどってきてよ。

C11：命を返して。

C12：一人にしないで。

C13：生き返って。

C14：置いていかないで。

C15：戦争さえなければ、こんなことにならなかったのに。



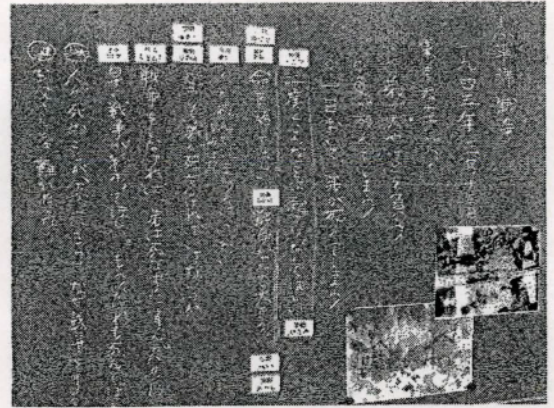
C16：1回きりの命をたくさん奪った戦争がにくい。

C17：人が死ぬのはこわい。

C18：二度とこんな目にはあいたくない。

子どもたちは真剣に話しに聞き入っていた。弟がやけどを負う場面や死んでいるお母さんを見た場面では、顔を曇らせる子もいた。C10「もどってきてよ」、C11「命をかえして」、C13「生き返って」のように、生き返るはずはないと分かっているが、罪のない家族の命が突然奪われた絶望的な状況では、そう思ってしまうだろうと

いう意見が多くでた。どの子もわたしの切実な思いを感じ取ったようだ。また、罪のない命が奪われたことに対する悲しみや怒りを言葉にする子も何人かいた。意見が言えなかった子も、ワークシートに自分なりの思いを書いていた。



最後に【場面3：おばあちゃんが、「命は一回きり、1回きりなの。」とぼくに話す場面】を、おばあちゃんの「命は1回きり」という言葉に気持ちを込めながら読み進めた。

### 【発問③】

「命は1回きり」という言葉を聞いて、ぼくはどんなことを思ったでしょう。

C19：人が生き返るなんてありえないんだ。

C20：現実とゲームの世界は違うんだ。

C21：もしぼくが死んだら、生き返ることはないんだ。

C22：1回で死んじゃうなんて嫌だ。でも、分かってよかった。

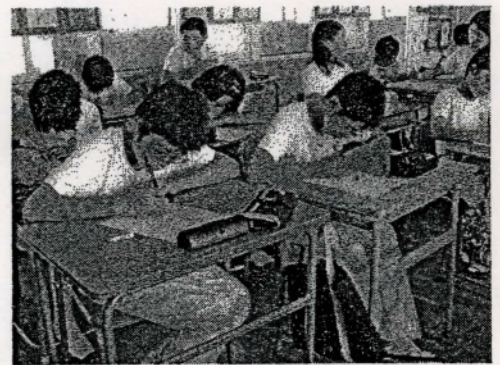
C23：命は1回きりなんだから、もっと大切にしないといけない。

C24：ぼくたちの命もひとつしかないから、とても大事なもののなんだな。

C25：テレビやゲームでは、死んだ人は生き返るけれど、現実では命は1回きりだから大切にしたい。

C26：戦争で、たった1回きりの命を奪われてしまっただけでかわいそう。

C27：戦争で1回きりの命を奪われてしまった人のためにも、しっかり生きないといけない。



「命は1回きり」というおばあちゃんの言葉が、子どもたちの心にも響いたようだ。「ぼくたちの命もひとつしかないから、とても大事なもののなんだ。」「命は1回きりなんだから、もっと大切にしないといけない」など、1回きりしかない自分の命を大切にしようという意見が多かった。また、現実とゲームの世界は違うんだという意見もでた。当たり前のことなのだが、生き物や人を殺すゲームに夢中になる子どもたちにとって、このこともきちんと押さえておかなければいけないと思った。

### ③授業の導入と終末のあり方

#### 《導入について》

戦争中の人々の生活の様子、戦争の悲惨さなどを理解していないと、資料の私、父、母などの気持ちを考えることはできないので、導入で戦争について触れ、戦争の悲惨さを知ったり、戦争について考えさせたりした。

まず始めに、既習の国語科「ヒロシマのうた」について思い出させ、その他に戦争について知っていることや思うことを発表させた。



- C: 東京のおばあちゃんが実際に東京大空襲を経験している。人がたくさん死んだことや、空から焼夷弾がたくさん降ってきて、みんな必死になって逃げたという話を聞いて怖いと思った。
- C: おばあちゃんが岡崎空襲の時の話をしてくれた。空から焼夷弾がたくさん降ってきて、逃げ回った。防空壕に入ったりした。家が焼けたり、人が死んだり悲惨だったと聞いた。
- C: おばあちゃんが、空襲に備えて庭に防空壕を作ったと言っていた。
- C: テレビで特攻隊のことをやっていた。飛行機に爆弾を積んで、敵艦につっこんで死んでいったと言っていた。

その後、東京大空襲について説明をし、『東京大空襲』（早乙女勝元・著）という本を紹介し、中の写真を一部見せた。焼夷弾が降る中を逃げ惑う人々、空襲後の焼け野原、焼け野原に転がるたくさんの遺体など、衝撃的な写真が多く、刺激が強すぎるのではと見せるかどうか迷ったが、戦争の悲惨さを伝えるには、やはり見せるべきだと思い見せた。子どもたちは顔をしかめたり、手で目を覆ったりし、沈黙がしばらく続いた。衝撃的な写真を見た後で、重たい気持ちになってしまったが、この気持ちがあったからこそ、この後、真剣に資料に入っていくことができたのだと思う。

#### 《終末について》

【発問③「命は1回きり」という言葉を聞いて、ぼくはどんなことを思ったでしょう。】での一人一人の思いと関連させて、自分自身のことでも考えさせたいと思い、終末の発問を以下のようにした。

「命は1回きりなんだな」と実際に思ったことはありますか。

- C: 去年、一緒に住んでいたおじいちゃんが死んでしまった。その時、もう帰ってこないんだと分かって、「命は1回きりなんだ」と思った。
- C: 一年生の時にお父さん死んでしまった時に思った。
- C: 秋葉原の事件とか、人が殺させるニュースを最近よくテレビで見ると考えてしまう。
- C: おばあちゃんに戦争でたくさんの方が亡くなったという話を聞いた時に、そう思った。

命を取り挙げた重たい内容であるため、いろいろな思いがあっても答えにくいかもしれないという不安はあったが、聞いてみた。たくさん手は挙がらなかったが、子どもたちは真剣な面持ちで友達の話聞いていた。「命は1回きりなんだな」と実際に思った経験がない子もいたが、友達の話から友達の様子を感じ取ったり、納得したりしていた。

授業をしてみて、どんな気持ちをもちましたか。

- C: 1回きりの命を失ったらもう終わりだから、こわいと思った。
- C: 今まで以上に、命って大切なんだなと思った。
- C: いつも、そんなに命について考えたことはなかったけれど、これからは命を大切にしないとけないと思った。
- C: 命を粗末にはいけないと思った。
- C: 命を失ってしまったらもう返ってこないし、周りの人が悲しむだけだから、命が一番大切にしなければならぬと思った。
- C: 自分の弟やお母さんが目の前で死ぬってどんなことだろう。
- C: 戦争が起こると、1回きりの命が次々に奪われていくのですごく悲しい。
- C: 戦争は嫌だ。二度と起こらないでほしい。
- C: 戦争がなければ、たくさんの命が救われたと思う。
- C: 今、私たちが生きているのは、戦争の被害にあった人たちのおかげなのかな。
- C: 戦争で死んでしまった人がかわいそう。